



横浜市立太尾小学校

学校だより

< 豊かに学び ともに未来をひらく 太尾の子 >

令和2年度9月号
令和2年8月31日発行

教室のノイズ

校長 館 雅之

1年生の算数の授業で、すてきな場面に出会いました。長さをくらべる活動をしていました。先生が、親指と人差し指を広げ、黒板に張った用紙の長さを測っていました。子どもたちは先生の動作をまねて机の縦の長さを測っています。すると、先生は広げた指を間をあけて置き、測り始めました。「違うよ。」「親指のところに次の人差し指を置いて！」など声があがりました。不思議がる先生の顔を見て(子どもが気付くように先生はわざと間違えやすい測り方を示していたのですが) ある子が「スキップじゃなくて…」と言いました。すると周りの子どもが「そう、スキップじゃなくてだよね。」と声に出し、さらに多くの子どもが「そうそう。」と頷きました。先生は「そうか！」と言いながら、正しい測り方を示していきました。



さて、このところオンラインの会議や研究会がさかんです。私もいつか参加をしてみました。遠方にいる方と気軽に顔を合わせて話せたり、集まる時間や場所の制約がなくなったり、また、何よりも流行になっていることも後押しし、何か最先端のことをやっているようなわくわくした気持ちになりました。

ところが、何度か経験するうちに、なにか違和感が芽生えてきました。オンライン会議では話す人以外はマイクをオフにしておきます。みんながオンにしたままですと、雑音が入り聞き取りにくくなるという理由からだそうです。確かに話している人の声のみが流れますので、それを明確に聞くことができます。一方で、自分が話をしていると、映像での反応はあるものの、音や雰囲気からそれを感じることができません。そこに違和感があったのでしょうか。

教室の学びは様々なノイズがあります。ノイズとは処理対象となる情報以外の情報のことです。はじめに紹介した算数の「スキップ」はノイズになるかもしれません。しかし、ノイズこそが重要な創造性の種であり、また、豊かな学びを生み出すものと私は考えています。人は無音では逆に集中を欠くという意見や、ホワイトノイズの大切さを提唱する考えがあります。効率性のみを考えれば、対象とする情報以外の情報は無いほうがよいでしょう。しかし、子どもの学びは、このノイズがとても重要で、これこそが学校で、また、集団で学ぶ意義だと考えます。

今後、一人一台の端末器機の導入など急速に子どもたちの学びの環境は変化していくことでしょう。今の大人が過ごした学校生活の姿は激変していきます。(お子さんの教室に入り、懐かしく感じるからこそ学校が変化していない理由だという意見もあるようです。) そのような変化の中でこそ、学びの中で生じる子どものノイズが重要な意味をもつものと考えます。



さて、先程の授業場面に戻りますと、「スキップ」というノイズをしっかりと聴き取った先生の感性も素晴らしいと思いませんか。ノイズを聴き取り、それを生かせる職員集団をさらに目指していくことが必要だと子どもの姿が私に教えてくれた一場面でした。